

令和5年産雑豆の収穫量と 令和6年産雑豆の作付指標面積 について

(公財)日本豆類協会

1. 令和5年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計部は、令和6年2月27日付けで「令和5年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」を公表した。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、紹介する。

(1) 小豆（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は2万4,800haで、前年産に比べ1,600ha（7%）増加した。

これは、主産地である北海道において、他作物からの転換等があったためである。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は125kgで、前年産を31%下回った。

これは、主産地である北海道において、生育初期から高温で経過したことで、着さや数が平年に比べ多かった一方、小粒傾向となったことに加え、登熟から収穫期にかけ降雨も多かったこと等で品質も低下したためである。

なお、10a当たり平均収量対比は、65%となった。

③収穫量

全国の収穫量は3万900tで、前年産に比べ1万1,200t（27%）減少した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の94%を占めている。

(2) いんげん（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は5,870haで、前年産に比べ350ha（6%）減少した。

これは、主産地である北海道において、他作物への転換等があったためである。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は88kgで、前年産を36%下回った。

これは、主産地である北海道において、生育初期から開花期まで高温傾向で経過し生育はおおむね順調となり、着さや数が多く子実重は平年を上回ったものの、登熟期からの高温及び断続的な降雨等により品質が低下したためである。

なお、10a当たり平均収量対比は、69%となった。

③収穫量

全国の収穫量は5,180tで、前年産に比べ3,350t（39%）減少した。

なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている。

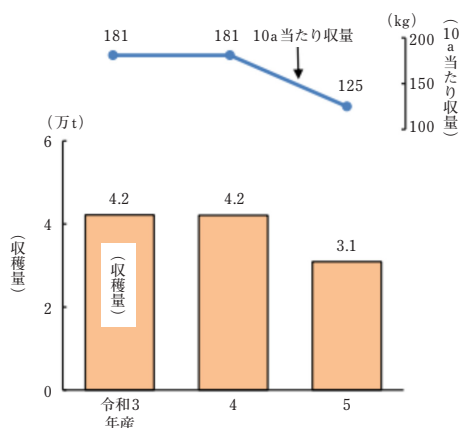


図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量の推移

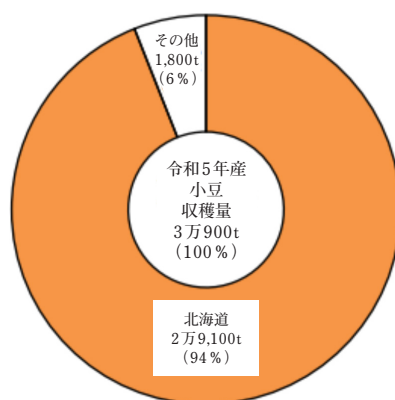


図2 令和5年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

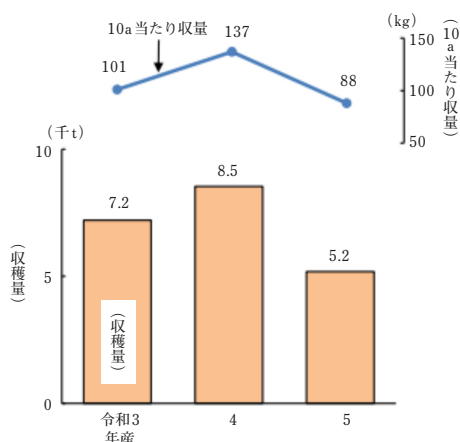


図3 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

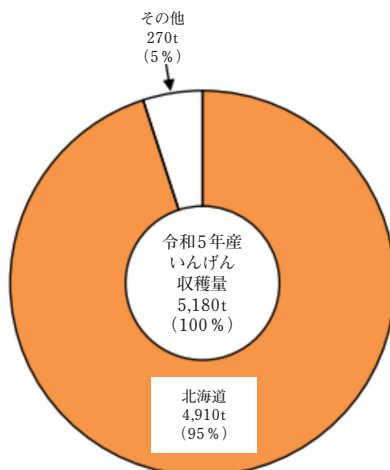


図4 令和5年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

表1 令和5年産小豆(乾燥子実)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量	10a 当たり 平均収量
				対差 (ha)	対比 (%)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)	対比 (%)	対比 (kg)
全国	24,800	125	30,900	1,600	107	69	△11,200	73	65	193
うち北海道	20,900	139	29,100	1,800	109	67	△10,200	74	63	220
滋賀	141	80	113	△23	86	82	△46	71	99	81
京都	415	39	162	△43	91	54	△168	49	67	58

表2 令和5年産いんげん(乾燥子実)の作付面積、
10a当たり収量及び収穫量(北海道:種類別)

区分	作付面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					(参考)	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均収量	10a 当たり 平均収量
				対差 (ha)	対比 (%)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)	対比 (%)	対比 (kg)
全国	5,870	88	5,180	△350	94	64	△3,350	61	69	127
うち北海道	5,450	90	4,910	△330	94	64	△3,180	61	69	130
うち金時	3,930	84	3,300	△230	94	69	△1,730	66	75	112
手亡	1,270	110	1,400	△50	96	56	△1,170	54	57	194

注:「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。なお「きたロツソ」を含んでいない。

表3 小豆及びいんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区分	小豆			いんげん		
	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)
平成26年産	32,000	240	76,800	9,260	221	20,500
27	27,300	233	63,700	10,200	250	25,500
28	21,300	138	29,500	8,560	66	5,650
29	22,700	235	53,400	7,150	236	16,900
30	23,700	178	42,100	7,350	133	9,760
令和元	25,500	232	59,100	6,860	195	13,400
2	26,600	195	51,900	7,370	67	4,920
3	23,300	181	42,200	7,130	101	7,200
4	23,200	181	42,100	6,220	137	8,530
5(概数)	24,800	125	30,900	5,870	88	5,180

2. 令和6年産雑豆の作付指標面積(北海道)

(1) 小豆

北海道産小豆の需要は確実に回復してきていることから、これを維持・拡大していくためには、北海道産小豆の作付面積を確保し、実需に対して供給不安を与えないことが最も重要である。

北海道産小豆の目指す姿の実現に向けて、JA北海道中央会等により、昨年に引き続き令和6年産の作付指標面積は22,100haと定められた。

(2) いんげん等(菜豆類)

菜豆類は、和菓子や煮豆など、日本の食文化を支える重要な品目であり、その供給は北海道が支えている。その一方で、菜豆類の作付は、令和5年産で前年対比242haの減と減少傾向に歯止めがかかっておらず、このまま作付の減少が続くと、豆類の供給基盤が損なわれる懸念がある。

このことから、北海道産いんげん等(金時、手亡、えん豆等)の令和6年産の作付指標面積は、令和5年産の実績面積を上回る6,200haとされた。

表4 令和6年産雑豆の作付指標面積(北海道)

単位: ha

区分		5年産	6年産作付指標	備考
雑豆	小豆	20,756	22,100	
	菜豆等	5,794	6,200	えん豆等を含む

* 5年産実績面積は、統計情報換算値